

森林測候所氣象觀測心得
森林測候所氣象統計心得
森林測候所氣象報告心得

農
林
省
林
業
試
驗
場



02000-00358388-5



森林測候所氣象觀測心得

壹 總 則

- 一 森林測候所ニ於ケル常時及臨時氣象觀測ハ本心得ニ依ルヘシ但シ特別ノ調査又ハ試驗ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム
- 二 觀測器械ノ据付手入及讀取方竝各種現象ノ觀測方ハ主トシテ中央氣象臺編纂ノ「氣象觀測法」(大正四年九月刊行)ニ依ル本心得中「氣象觀測法」トアルハ同書ヲ指スモノトス
- 三 觀測器械ハ常ニ手入ヲ怠ラス且狂ナキヤ否ヤヲ時々檢スヘシ
- 四 常用觀測器械ノ位置又ハ其ノ地上ノ高サヲ變更セントスルトキハ豫メ其ノ事由ヲ具シ林業試驗場長ノ承認ヲ受クヘシ
- 五 時刻ハ廿四時制ニ依リ、長サノ單位ハ米^{メートル}法、溫度ハ攝氏度盛ヲ用キ、所要數値ハ觀測、計算共ニ所定位以下四捨五入スヘシ
- 六 觀測シタル事項ハ其ノ場ニ於テ直ニ氣象觀測野帳ノ各相當欄ニ記入シ觀測終了ノ都度所定ノ計算ヲ爲スヘシ

(昭和二年十二月二十二日試發第一六四號)
別冊本心得中ニ記載セル氣象觀測野帳及
用紙ノ雛型ハ之ヲ省略ス

七 氣象觀測野帳ノ記入方ハ「氣象觀測法」(第十五章)ヲ參照シ尙特ニ左記事項ニ注意スヘシ

1 新ニ氣象觀測野帳ヲ使用スルトキハ必ス先ツ器差表欄ニ使用諸器械ノ器差ヲ記入スルコト

2 年月日所名及觀測者名ハ每頁必ス之ヲ記入スルコト

3 氣象觀測野帳ニ記入シタル事項ハ夫々所定ノ計算ヲ爲シ、止ムヲ得サル事情アル場合ノ外速ニ當該觀測者以外ノ者之ヲ檢シ必要ナル個所ニハ黒インクヲ入レ鉛筆書ノ磨消ヲ防キ且檢閲濟ノ證ト爲スコト

八 氣壓ノ更正、水蒸氣張力及濕度ノ計算、可照時等ハ大日本氣象學會編纂ノ「氣象常用表」ニ依ルヘシ

貳 常時觀測

一 常時觀測ニ於ケル觀測事項ハ左ノ如シ

1 風

2 氣壓

3 氣溫

4 水蒸氣張力

5 濕度及飽差

6 降水量

7 蒸發量

8 地溫(指定ノ個所ニ限ル)

9 日照時

10 雲

11 雜象及地震

二 觀測定時ハ七時、十四時、二十一時ノ三回トス但シ蒸發量ハ七時及二十一時ノ二回、一米以上ノ深サノ地溫ハ十四時一回、雜象及地震ハ隨時之カ觀測ヲ爲スモノトス

三 觀測定時ニ於ケル觀測ノ順序ハ「氣象觀測法」(第十五章)ニ依ルヘシ

參 臨時觀測

一 左記ノ場合ニ於テハ臨時ニ氣壓、氣溫、濕度、風向、風速ノ各自記器ノ記錄ヲ爲サシメ每一時間又ハ必要ニ應シ適宜ノ時刻ニ於ケル讀取ヲ爲シ又必要ト認メタルトキハ雲ノ觀測ヲ爲スヘシ但シ自記記錄ノ讀取値ハ實測値ニ依リ之ヲ補正スルモノトス

1 暴風雨ノトキ(暴風ノミノ場合ヲ含ム)

2 顯著ナル雷雨ノトキ

二 暴風雨ノトキハ特ニ氣壓最低ノ現ハレタル時刻(時ノ十分位又ハ分迄)及其ノ示度竝氣溫、濕度、風向等ニ急變ノ起リタル時刻(時ノ十分位又ハ分迄)及其ノ示度ノ讀取ヲ爲スヘシ

三 自記記錄紙ノ始終時刻ハ正確ナル時計ニ依リテ之ヲ正シ讀取時刻ノ精確ヲ期スヘシ

四 風

一 風ノ觀測方ハ「氣象觀測法」(第五章)ヲ參照スヘシ

二 風速ハ觀測時前二十分間ノ平均ヲ取ルヘシ自記器ニ依ル場合亦同シ

三 風速ハ小數一位迄算出シ〇・五^{米/秒}未満ナルトキハ風速ノミヲ記錄シ方向欄ニハ橫線一本ヲ引キ「靜穩」ニ算入スヘシ

四 廿四時間全程及其ノ平均風速ハ廿一時ヲ限界トシテ算出スヘシ

五 氣 壓

一 氣壓ノ觀測方ハ「氣象觀測法」(第二章)ヲ參照スヘシ

二 氣壓ハ特ニ指定シタル場合ノ外ハ氷點ニ於ケル度(溫度更正ノミヲ施シ重力及海面更正ヲ施ササル示度)ヲ小數一位迄算出シ必ス百位ノ數字ヲモ記錄スヘシ

三 氣壓ノ更正方ハ「氣象觀測法」(第一四―二三頁)ニ依ルヘシ

六 氣 溫

一 氣溫ノ觀測方ハ「氣象觀測法」(第三章)ヲ參照スヘシ

二 最高寒暖計及最低寒暖計ハ二十一時ニ復度スヘシ

七 水蒸氣張力

一 水蒸氣張力ノ計算ハ「氣象觀測法」(第三六―三九頁)ニ依ルヘシ

八 濕度及飽差

一 濕度ノ觀測方ハ「氣象觀測法」(第四章)ヲ參照スヘシ

二 飽差ハ乾球示度ニ對スル水蒸氣ノ最大張力ヨリ其ノ時刻ノ水蒸氣張力ヲ減シテ算出スヘシ

九 降 水 量

- 一 降水量ハ之ヲ觀測定時ニ實測スルノ外自記雨量計ニ依リ之ヲ記錄セシムヘシ但シ冬期凍結ノ虞アルトキハ自記雨量計ノ使用ヲ休止スルコト
- 二 降水量ノ觀測方ハ「氣象觀測法」(第六章)ヲ參照スヘシ但シ積雪深キ地ニ在リテハ冬期間ニ限リ雨量計設置ノ高サヲ變更スルモ妨ナキモ此ノ場合ニハ總則第四項ノ手續ヲ爲スヘシ
- 三 雪又ハ雨ノ凍結セル場合ニ於ケル降水量ノ測定ハ衡器ニ依ルヲ妨ケス
- 四 降水量ノ露、霜、霧ノミニ依ル場合ハ雨、雪、霰、雹ニ依ルモノト區別スル爲野帳記入量ノ右肩ニ夫々ノ記號ヲ記スヘシ

拾 蒸 發 量

- 一 蒸發量ハ露天及日蔭ノ二個所ニ於テ之ヲ觀測スヘシ
- 二 蒸發量ノ觀測方ハ「氣象觀測法」(第九章)ヲ參照スヘシ但シ日蔭ノ蒸發計ハ百葉箱又ハ蒸發計裝置箱内ニ裝置シ又「九、降水量ノ二」ニ依リ雨量計ノ高サヲ變更シタル場合ハ露天ノ蒸發計ヲモ臺ヲ設ケテ之ト同一ノ高サト爲スコト
- 三 蒸發計ノ水ノ取換ハ廿一時ニ之ヲ行ヒ七時ノ觀測ハ衡器ニ依ルヘシ
- 四 結氷ノ場合ニ於ケル蒸發量ノ觀測ハ衡器ニ依ルヲ妨ケス

- 五 蒸發量カ降水又ハ凝結ノ爲「負」トナリタルトキハ之ニ一ヲ附シテ記入スヘシ
- 六 降雪、吹雪等ノ爲露天ノ蒸發量ヲ正確ニ觀測シ得サルトキハ缺測ト爲スヘシ

拾壹 地 溫

- 一 地溫ノ觀測ハ三〇糎迄ノ淺層ニ在リテハ曲管式、其レ以上ノ深層ハ鐵管式地中寒暖計ニ依ルヘシ
- 二 地溫ノ觀測方ハ「氣象觀測法」(第拾章)ヲ參照スヘシ

拾貳 日 照 時

- 一 日照時ノ觀測ハおよるだん日照計ニ依リ其ノ觀測方ハ「氣象觀測法」(第八章)ヲ參照スヘシ
- 二 日照時ハ「時」ヲ單位トシ百分位迄讀取ルヘシ

拾參 雲

- 一 雲ノ觀測方ハ「氣象觀測法」(第七章)ヲ參照スヘシ

拾四 雜象及地震

各種現象並其ノ記載方ハ「氣象觀測法」(第十一章乃至第十三章)ヲ參照シ尙左記事項ニツキ注意スヘシ

1 結氷ハ露天ノ蒸發計ニ就テ之ヲ觀測スルコト但シ積雪ノ爲メ結氷ヲ判定シ難キ場合ハ日蔭ノ蒸發計ニ依リテ觀測シ其ノ旨ヲ記事欄ニ記載スヘシ

2 黃砂ハ其ノ始終時刻並濃度ノ變化ヲ觀測スルコト

3 朝燒、夕燒、凍露ハ其ノ出現ノ午前又ハ午後ナルカヲ區別スル爲現象記號ニル又ハPヲ附記シ且其ノ濃度ヲ記錄スルコト

4 積雪ノ深サハ毎日十四時一回之ヲ觀測スルコト(單位糧、測定ハ其ノ十分位迄)但シ十四時以後ニ降雪アリテ翌日同時刻迄ニ融解又ハ吹雪ノ爲深サヲ變スル處アルトキハ臨時之ヲ觀測シ其ノ時刻ト共ニ之ヲ記錄スヘシ

積雪ノ深サハ露場内ノ標準的地點ニ於テ之ヲ觀測スルコト但シ標準的地點ヲ得難キトキハ適宜數個所ニ於テ之ヲ觀測シ其ノ平均値ヲ取リ且各觀測値ハ之ヲ野帳ニ記錄スヘシ

5 霧ハ露場ニ無クシテ附近ノ山岳若クハ溪谷等ニノミ在ル場合ニ於テモ之ヲ觀測シ露場ノモノト區別シテ記錄スルコト但シ霧日數ノ算出ハ露場ノ霧ノミニ依ルヘシ

霧ハ其ノ襲來移動ノ方向及發達消散ノ經過等ヲ詳細ニ觀測スルコト

6 煙霧ハ其ノ濃淡ヲ三階級ニ分チテ觀測スルノ外適當ナル展望地物ヲ定メ得ル場合ハ之ニツキ可

視距離ノ程度ヲ觀測スルコト

展望地物ハ豫メ地圖ニ依リ其ノ方向、水平距離並高距ヲ測リ置き之ニ依リテ可視距離ヲ觀測シタルトキハ識別シ得タル最長距離ノモノヲ記錄スルコト

7 霜ハ露場内一定ノ場所ニ置キタル黑板(一尺四方位)上ニテ之ヲ觀測スルコト

地上ニ積雪アル場合ハ豫メ黑板ヲ雪面上ニ置キテ之ヲ觀測スルコト但シ其ノ後ノ降雪ニ依リ黑板上ニ霜ノ有無ヲ檢出シ難キ場合ハ百葉箱ノ外側ヲ檢シテ之ヲ決定スヘシ

8 霜柱ハ露場内ノ一部ニ設ケタル裸地ニ於テ之ヲ觀測スルコト

積雪中適々積雪ナキ個處ニテ霜柱ヲ見タルトキハ之ヲ其ノ場處ト共ニ記錄スルコト但シ所定ノ場處以外ノモノハ霜柱日數ニ算入セサルモノトス

地震ノ震度ハ人體ノ感覺又ハ地物ノ振動ニ依リテ之ヲ判斷シ左ノ階級ニ區分スヘシ

階級	程度	度
微震	靜止セル人若クハ注意深キ人ノ感ズル極メテ輕微ナル程度	
弱震	一般ニ感スル程度ノモノニシテ僅ニ戸障子ノ動ク程度	
弱震	家屋動搖シ戸障子鳴リ振子時計止リ、垂下物動搖、液體ノ動搖等ノコトアル程度	

強	震 (震度弱キ方)	家屋烈シク動搖シ座リ惡シキ器物ノ倒伏、液體ノ溢出等ノコトアル程度
強	震	壁ノ龜裂、石碑或ハ石燈籠ノ顛倒、煙突ノ破損、土藏壁ノ破損等ヲ生ズル程度
烈	震	屋宇倒レ、山嶽崩壊スル等地震ニ大變化ヲ生ズル程度

三 前各項ニ記載以外ノ特異ノ現象例ヘハ着色雪等ノ如キハ詳細ニ之ヲ觀測スヘシ

森林測候所氣象統計心得

一 總 則

一 森林測候所ニ於テハ其ノ氣象觀測成績ヲ整理スル爲左ノ原簿ヲ備フヘシ

氣象月表原簿

氣象年表原簿

氣象累年原簿

二 原簿記入統計上注意スヘキ事項左ノ如シ

- 1 文字、數字及記號ハ明瞭ニ記入スルコト
 - 2 風向、雲向、雲形ノ記號文字ハ必ス楷書ヲ用ウルコト
 - 3 年及日ハ123...等ノ亞刺比亞數字又月ハI II III IV...等ノ羅馬數字ヲ用ウルコト
 - 4 總テ計算ハ數値ノ所定位以下四捨五入スルコト
 - 5 數値ヲ類別スル場合ニ「何々以上」ノトキハ其ノ數ヲ含ミ「何々以下」ノトキハ其ノ數ヲ含マサルモノトシ「以上」ニハ「以下」ニハ「用ウルコト」
- 25³⁰等ト區別スル場合ハ25ハ廿五以上ノ數ヲ總テ含ミ25-30ノ意義ニ用キサルコト

- 6 10-15 ノ如ク記スルトキハ10ヨリ15未滿迄ノ意義ニシテ10ヲ算入シ15ヲ算入セサルコト
- 7 0又ハ0.0等ハ數値ノ所定位1ニ滿タサルノ意義ニシテ全ク現象無キトキハ横線一本ヲ引キテ之ト區別スルコト
- 8 止ムヲ得サル事故ノ爲所定ノ觀測ヲ逸シタル場合ハ×ヲ記スルコト
月ノ平均値ニシテ觀測時ノ値ノ月平均ノ平均値ト其ノ日平均ノ月平均値トニ相違アル場合ハ前者ヲ取ルコト
- 9 製表上之ニ類似ノ場合ハ右ニ準スルモノトス
半旬期ハ毎年一月一日ニ始リ一個年ヲ七十三期ニ分チ第十二期(自二月二十五日至三月一日)ニ限り閏年ニ在リテハ六日ト爲スコト

二 氣象月表原簿

- 一 氣象月表原簿ハ氣象用紙第一號(氣象月表原簿用紙)及同第六號ノ一(試驗成績表原簿用紙)ヲ用キテ作製スヘシ
- 二 氣象月表原簿ハ日々前日ノ觀測事項ヲ氣象觀測野帳ヨリ之ニ記入シ且其ノ際前回ノ記入ニ誤リナキヤ否ヤヲ檢スヘシ觀測値ニ異常ノ差異有ルヲ認メタルトキハ其ノ數字ノ右肩ニ「#」ノ印ヲ記

スヘシ

三 風ニ關スル事項ノ記入方ハ左記ニ依ルヘシ

- 1 風速ノ觀測時ノ値並其ノ日及月平均値ハ小數一位迄記入スルコト
- 2 風速ノ觀測時ノ値並其ノ廿四時間平均値ノ月中最大ニハ二本ノ横赤線ヲ其ノ數字ノ下ニ引クコト

3 暴風日數ハ「記事其ノ一」欄ニ記入セルモノヨリ之ヲ取ルコト

4 暴風日數ノ類別日數ハ當日ノ最大風速ニツキ左記ニ依リ之ヲ算出記入スルコト

一〇/秒 以上
一五/秒 以上
二九/秒 以上

5 風速度ノ月中最大及方向別最大風速度ハ常時並臨時觀測値ヨリ之ヲ取ルコト

四 氣壓ノ記入方ハ左記ニ依ルヘシ

- 1 氣壓ノ觀測時ノ値(米點ノ度)並其ノ日及月平均値ハ百位ノ數字ヲ略サス小數一位迄記入スルコト
- 2 氣壓ノ極ハ常時並臨時觀測値ヨリ之ヲ取ルコト

3 氣壓ノ觀測時ノ值ノ月中最高ニハ二本其ノ最低ニハ一本ノ橫赤線ヲ各數字ノ下ニ引クコト
五 氣溫ニ關スル事項ノ記入方ハ左記ニ依ルヘシ

1 氣溫ノ觀測時ノ值並其ノ日及月平均値ハ小數一位迄記入スルコト

2 廿一時ニ觀測シタル最高及最低寒暖計ノ示度ヲ其ノ日ノ氣溫ノ極欄ニ記入スルコト

3 氣溫氷點以下ノ場合ハ其ノ度數ヲ百ヨリ減シタル餘數ヲ記入スルコト

4 氣溫ノ觀測時ノ值ノ月中最高並絕對最高及較差ノ最大ニハ二本ノ橫赤線ヲ各數字ノ下ニ引クコト

5 氣溫ノ觀測時ノ值ノ月中最低並絕對最低及較差ノ最小ニハ一本ノ橫赤線ヲ各數字ノ下ニ引クコト

6 毎觀測定時ニ於ケル乾球及濕球寒暖計ノ示度ノ差ヲ記入スルコト

7 毎日ノ平均、最高及最低氣溫ニ付キ左記ノ類別日數ヲ算出記入スルコト

平均氣溫	$< 0^{\circ}$ 及 $\geq 25^{\circ}$
最高氣溫	$< 0^{\circ}$ 及 $\geq 25^{\circ}$
最低氣溫	$< -10^{\circ}$ 及 $\geq 25^{\circ}$

六 濕度及飽差ノ記入方ハ左記ニ依ルヘシ

1 濕度ノ觀測時ノ值ハ一位、飽差ハ小數一位迄ヲ記入シ兩者共ニ其ノ日及月平均値ハ小數一位迄記入スルコト

2 飽差ノ觀測時ノ值ノ月中最大ニハ二本ノ橫赤線ヲ其ノ數字ノ下ニ引クコト

3 濕度ノ觀測時ノ值ノ月中最小ニハ一本ノ橫赤線ヲ其ノ數字ノ下ニ引クコト

七 水蒸氣張力ノ觀測時ノ值並其ノ日及月平均値ハ小數一位迄記入シ觀測時ノ值ノ月中最大ニハ二本其ノ最小ニハ一本ノ橫赤線ヲ各數字ノ下ニ引クヘシ

八 降水ニ關スル事項ノ記入方ハ左記ニ依ルヘシ

1 一日ノ降水量ハ廿一時ヲ限界トシテ之ヲ取ルコト

2 自記雨量計ノ記錄ニ依リ毎時ノ降水量ヲ氣象用紙第九號(毎時觀測成績表用紙)ニ記入スルコト
但シ前日廿一時ヨリ當日廿一時迄及其ノ合量ヲ當日ノ行ニ、又十時ニ至ル前廿四時間ノ合量ヲ前日ノ欄ニ記入スヘシ

3 自記雨量計ノ記錄紙ノ讀取值ニ對シテハ實測値ニ依ル補正ヲ爲ササルモノトス
一日ノ降水量(實測)ニ付キ左記ノ階級ニ從ヒ類別日數ヲ算出記入スルコト但シ降水量ノ露、霜、霧ノミニ依ル場合ハ之ヲ算入セサルモノトス

耗 0.1
耗 1.0
耗 5.0
耗 10.0
耗 30.0
耗 50.0
耗 100.0

- 4 降水日數 ≥ 0.1 耗
ノ中雨(雨ニ雪其ノ他ノ混交セル場合ヲ含ム)ノ日數ヲ「雨日數」トシテ算出記入
スルコト

- 5 自記雨量計ニ依ル一時間降水量カ一〇・〇耗以上ニ達シタルトキハ左記ノ階級ニ從ヒ類別回數
ヲ算出記入スルコト但シ廿一時ヲ限界トス

耗 ≥ 10.0
耗 ≥ 30.0

- 6 一時間降水量(自記)並ニ廿四時間降水量(實測及自記)ノ月中最多ニハ二本ノ横赤線ヲ各數字ノ下
ニ引クコト

九 蒸發量ニ關スル事項ノ記入方ハ左記ニ依ルヘシ

- 1 二回ノ觀測値並ニ一時ニ於ケル前廿四時間量及月平均値ハ小數一位迄記入スルコト
2 七時ヨリ廿一時ニ至ル十四時間量及二十一時限界日量ノ月中最多量ニハ二本ノ横赤線ヲ各數字
ノ下ニ引クコト

- 3 蒸發量ノ「負」トナリタルトキハ降雨雪霰電アル場合ハ月表ニハ缺測記號「×」ヲ記入シ降雨
雪霰電ナク全ク凝結ノミニ依ル場合ハ「-」符號ヲ附シテ其ノ量ヲ記入シ日計及月計並平均ニ
加算スルコト

- 一〇 地溫ノ觀測時ノ値並其ノ日及月平均値ハ小數一位迄記入スヘシ但シ其ノ氷點以下ノ度ノ記載方
ハ氣溫ノ場合ニ準シ又用紙ハ氣象用紙第六號ノ一ヲ使用スルコト

- 一一 雲ニ關スル事項ノ記入方ハ左記ニ依ルヘシ

- 1 雲量ノ觀測時ノ値ハ整數位其ノ日及月平均値ハ小數一位迄記入スルコト
2 雲ノ全ク無キトキハ雲形欄ニ横線一本ヲ引キ又濃霧或ハ黃砂ノ爲雲形ヲ觀測スルコト能ハサル
トキハ其ノ欄ニ霧或ハ黃砂ノ記號ヲ記入スルコト

- 一二 日照時ニ關スル事項ノ記入方ハ左記ニ依ルヘシ

- 1 日照時並ニ其ノ合計ハ小數二位迄記入シ日及月合計ノ各可照時ニ對スル百分率ハ整數位ニ止ム
ルコト

- 2 毎日ノ日照時並其ノ可照時ニ對スル百分率ノ月中最大ニハ二本ノ横赤線ヲ各數字ノ下ニ引クコ
ト

- 3 毎日ノ日照時ノ可照時ニ對スル百分率ニ付キ左記ノ類別日數ヲ算出記入スルコト

<20
≧80

一八

4 總テ可照時ノ計算ハ其ノ地ノ緯度ヲ分位迄取ルヘシ

一三 記事欄ノ記入方ハ左記ニ依ルヘシ

1 雨、雪、霰、雹、電雷、黃砂、霧ハ其ノ始終時刻竝經過ヲ記入スルコト但シ雨、雪、霰、雹以外ノモノハ同時ニ起リタルトキト雖各別ニ之ヲ記入スヘシ

2 前記以外ノモノハ觀測シタル時刻ヲ其ノ記號ト共ニ記入スルコト但シ出現ノ午前又ハ午後ナルコトノミヲ記スルモノニアリテハ其ノ現象記號ニ a 又ハ p ヲ附記スヘシ

3 暴風ハ臨時觀測ノ結果ニ依リ其ノ始終ノ時刻及當日(夜半限界)ノ最大風速及其ノ方向竝時刻ヲ記號ニ竝記シテ「記事其ノ一」欄ニ記入スルコト(記入例 $S-F, 10-13 (15.9m) \swarrow NNE, 12M$)

4 「記事其ノ二」欄ニハ露場以外ニ於テ觀察シタル事項及天氣日數ニ關係ナキ事項等ヲ記入シ又顯著ナル現象ニシテ記事ノ長文ニ亘ルモノハ「記事其ノ一」欄ニハ其ノ概略ニ止メ詳細ハ之ヲ「記事其ノ二」欄ニ記入スルコト

一四 「天氣欄」ニハ觀測定時ニ於ケル「天氣」ヲ雨、雪、霧、霰、快晴、晴、曇ニ分チテ記入スヘシ但シ二種以上ノ天氣同時ニ起ル場合ニハ雨又ハ雪ヲ主トシテ一種ヲ記スルコト

一五 積雪ノ深サハ毎日十四時ニ觀測シタルモノヲ記入シ又積雪最深欄ニハ氣象觀測心得第十四項

「雜象及地震」ノ一ノ4ニ依ル臨時觀測值カ其ノ前後ニ於ケル十四時ノ值ヨリ深キ場合ニ其ノ時刻ト共ニ當日ノ欄ニ記入シ然ラサル場合ハ空欄トシ又此ノ期間中ニ新ニ降雪ナキトキハ本欄ニ横線

一本ヲ引クヘシ又積雪ノ十四時及最深欄ノ月中最大ニハ二本ノ横赤線ヲ其ノ數字ノ下ニ引クヘシ

一六 天氣日數ノ類別ハ左記ニ依ルヘシ

1 降水量欄中「符號」欄ニハ廿一時限界ノ降水ノ種類ヲ符號ニ依リ記入シ雨日數ハ之ヲ本欄ヨリ算出スルコト

2 雪、霰、雹、霜、霜柱、結氷及吹雪ノ日數ハ現象ノアリタル日ヲ算入スルコト

3 電雷日數ハ R^2, R^0, T^2, T^0 ノ日ヲ算入シ T^1 又ハ電光ノミノ日ヲ算入セサルコト

4 霧日數ハ III, III^2, III^3 ノ日ヲ算入シ III^0 ノミノ日ヲ算入セサルコト

5 暴風日數ハ風速 $10.0 \frac{m}{s}$ 以上ニ達シタル日ヲ算入スルコト

6 快晴、晴、曇ノ日數ハ平均雲量(三回平均)ニ付キ其ノ二未滿ヲ快晴、二ヨリ八未滿迄ヲ晴、八以上ヲ曇トシテ算入スルコト

7 露日數ハ A^1, A^2, A^0 ノ日ヲ算入シ A^0 ノミノ日ヲ算入セサルコト

8 積雪日數ハ十四時ニ於ケル積雪 0.0 糎以上ノ日ヲ算入スルコト

9 地震回數ハ其ノ震度ニ關セス發現ノ回數ヲ算入スルコト

一七 器械ノ手入、移動並製表者及檢算者氏名等ハ之ヲ相當欄ニ記載スヘシ

三 氣象年表原簿

- 一 氣象年表原簿ハ氣象用紙第三號（氣象年表原簿用紙）ヲ用キテ作製スヘシ
- 二 氣象年表原簿ハ氣象月表原簿ニ依リ記入統計スヘシ
- 三 氣象年表原簿ニ記載スヘキ數値ノ所定位並最大及最小値ニ引クヘキ横赤線ハ左表ニ依ルヘシ

氣象年表原簿記載數值ノ所定位及橫赤線ノ引方一覽表

降 水 日 量	地 溫	量發蒸 最平總	類 別	照 日	量 水 降			雲	度 濕		張力 水蒸氣	溫 氣						飽 差	壓 氣		風				種 目
					雨	最	全		全	時		降	降	全	時	最	全		時	全	時	極	全	時	
	全 時 月 別 平 平 均 均	多		百 全 時 月 別 分 日 日 照 照 率 時 時	日 多 計 (自 合 合 回 日 記 計 計 數 數)	日 多 計 (自 合 合 回 日 記 計 計 數 數)	全 時 月 別 平 平 均 均 雲 雲 量 量	最 全 時 月 別 小 平 平 均 均 濕 濕 度 度 度	全 時 月 別 平 平 均 均 水 水 蒸 蒸 氣 氣 張 張 力 力	類 乾 極 較 較 最 最 全 時 別 濕 最 最 差 差 低 高 月 別 平															

四 氣象累年原簿

一 氣象累年原簿ハ氣象用紙第四號ノ一乃至三(氣象累年原簿用紙)ヲ用キテ作製スヘシ

二 氣象累年原簿ノ記入方ハ左記ニ依ルヘシ

1 月及半旬期ノ平均、合計、日數、回數、極等ノ數値ハ氣象月表原簿及同年表原簿ニ依ルコト

2 日數、回數及百分率ノ累年平均値ハ小數一位迄其ノ他ハ記入値ト同位迄算出スルコト

3 半旬期又ハ月ノ中途ヨリ觀測ヲ開始シタルモノニ付テハ其ノ半旬期又ハ月ノ値ハ之ヲ省クコト

4 一年ノ中途ヨリ觀測ヲ開始シタルモノハ其ノ年ノ月及半旬期ノ値ハ之ヲ記入スヘキモ累年統計

ニハ之ヲ加算セサルコト

5 年ノ中途ヨリ觀測ヲ開始シタル場合モ觀測期間中ノ月及年ノ極數ハ之ヲ記入スルコト

三 氣象累年原簿ニ記入統計スヘキ事項左ノ通トス但シ各事項ノ平均、總量、總計、極等ハ特ニ之ヲ示ササル場合ハ總テ月ニ依ルモノトス

1 氣壓之部

(1)平均氣壓、(2)最高氣壓及其ノ起日、(3)最低氣壓及其ノ起日

2 風之部

(1) 平均風速、(2) 最大風速度及其ノ起日、(3) 一〇^{米/秒}以上ノ日數、(4) 一五^{米/秒}以上ノ日數、(5) 二九^{米/秒}以上ノ日數、(6) 風向別觀測回数(三同時別及月總回数)、(7) 風向別最大風速(各月別及年別)及其ノ起日

〔備考〕 風向別觀測回数ノ三同時別ノ十四時ノモノハ從來(昭和元年末迄)ノモノト別ニ新設スルコト

3 氣溫之部

(1) 平均氣溫、(2) 最高氣溫ノ平均、(3) 最低氣溫ノ平均、(4) 氣溫較差ノ平均、(5) 氣溫最高極及其ノ起日、(6) 氣溫最低極及其ノ起日、(7) 氣溫較差ノ最大及其ノ起日、(8) 平均氣溫半旬期平均、(9) 最高氣溫半旬期平均、(10) 最低氣溫半旬期平均、(11) 平均氣溫 $<0^{\circ}$ ノ初終日、(12) 最高氣溫 $<0^{\circ}$ ノ初終日、(13) 最低氣溫 $<0^{\circ}$ ノ初終日、(14) 最低氣溫 $<0^{\circ}$ ノ初終日、(15) 平均氣溫 $\geq 25^{\circ}$ ノ初終日、(16) 最高氣溫 $\geq 25^{\circ}$ ノ初終日、(17) 最高氣溫 $\geq 30^{\circ}$ ノ初終日、(18) 最低氣溫 $\geq 25^{\circ}$ ノ初終日

4 地溫之部

(1) 深サ〇・三米平均地溫、(2) 深サ一・二米平均地溫、(3) 深サ三・〇米平均地溫

〔備考〕 〇・三米以下ノ淺層ノ觀測ヲ爲ストキハ右ニ準ス

5 水蒸氣張力之部

(1) 平均水蒸氣張力

6 濕度之部

(1) 平均濕度、(2) 最小濕度及其ノ起日(三回觀測中ノ最小)、(3) 平均濕度ノ半旬期平均

7 飽差之部

(1) 平均飽差

8 蒸發量之部

(1) 廿一時—七時ノ平均蒸發量(露天)、(2) 廿一時—七時ノ平均蒸發量(日蔭)、(3) 七時—廿一時ノ平均蒸發量(露天)、(4) 七時—廿一時ノ平均蒸發量(日蔭)、(5) 廿四時間平均蒸發量(廿一時限界)(露天)、(6) 廿四時間平均蒸發量(廿一時限界)(日蔭)、(7) 七時—廿一時最多蒸發量及其ノ起日(露天)、(8) 七時—廿一時最多蒸發量及其ノ起日(日蔭)、(9) 最多日量及其ノ起日(廿一時限界)(露天)、(10) 最多日量及其ノ起日(廿一時限界)(日蔭)、(11) 蒸發量半旬期平均(廿一時限界)(露天)、(12) 蒸發量半旬期平均(廿一時限界)(日蔭)

〔備考〕 從來(昭和元年末迄)ノ十時限界ノ觀測成績ハ露天ノモノト見做シ之ニ露天ノ廿一時限界ノモノヲ累加統計ス

ヘキモノトス

9 降水量之部

(1) 降水總量(廿一時限界)、(2) 降水總量(十時限界)(自記)、(3) 降水日量ノ最多(廿一限界)及

其ノ起日、(4)降水日量ノ最多(十時限界)(自記)及其ノ起日、(5)降水一時間最多量(自記)及其ノ起日、(6)廿四時間降水量〇・一耗以上アリシ日數(廿一時限界)、(7)廿四時間降水量一・〇耗以上アリシ日數(廿一時限界)、(8)廿四時間降水量五・〇耗以上アリシ日數(廿一時限界)、(9)廿四時間降水量一〇・〇耗以上アリシ日數(廿一時限界)、(10)廿四時間降水量三〇・〇耗以上アリシ日數(廿一時限界)、(11)廿四時間降水量五〇・〇耗以上アリシ日數(廿一時限界)、(12)廿四時間降水量一〇〇・〇耗以上アリシ日數(廿一時限界)、(13)一時間降水量一〇・〇耗以上アリシ回数(廿一時限界)(自記)、(14)一時間降水量三〇・〇耗以上アリシ回数(廿一時限界)(自記)、(15)降水半旬期總量(廿一時限界)

10 日照時之部

(1)日照時總計、(2)日照時總計ノ可照時ニ對スル百分率、(3)不照日數、(4)日照二〇%以下ノ日數(5)日照八〇%以上ノ日數、(6)日照時ノ半旬期平均

11 雲量之部

(1)平均雲量、(2)平均雲量ノ半旬期平均、(3)快晴日數、(4)曇天日數

12 雜象之部

(1)雨日數、(2)雪日數、(3)霰日數、(4)雹日數、(5)電雷日數、(6)霧日數、(7)霜日數、(8)霜柱日

數、(9)露日數、(10)吹雪日數、(11)積雪日數、(12)積雪ノ最深及其ノ起日、(13)結氷日數、(14)霜ノ初終日、(15)雪ノ初終日、(16)結氷ノ初終日、(17)霜柱ノ初終日、(18)積雪ノ初終日、(19)地震回数
四 累年統計ノ期間中ニ統計事項ノ觀測回数ニ變更アリタルトキハ其ノ日、半旬期及月平均値ハ特ニ其ノ統計方ヲ指示シタルモノノ外ハ其ノ儘之ヲ統計スヘシ但シ原簿ノ欄外ニ回数變更ノ旨記載スルコト

五 累年統計ノ期間中ニ日、半旬期又ハ月平均値ノ所定位ニ變更アリタル場合ハ特ニ其ノ統計方ヲ指示シタルモノノ外ハ變更迄ノ累年合計ニ其ノ儘累加シ其ノ後ノ合計及平均値ノ所定位ハ新ニ定メタルモノニ依ルヘシ但シ平均値算出方ニ變更アリタル旨ヲ原簿ノ欄外ニ記載スルコト

六 累年統計ノ期間中限界時刻ニ變更アリタル場合ハ特ニ其ノ統計方ヲ指示シタルモノノ外ハ變更前迄ノ累年合計ニ其ノ儘累加シテ累年統計スヘシ但シ限界時刻ニ變更アリタル旨ヲ欄外ニ記載スルコト

七 風力計常數變更(大正十四年一月一日)前後ノ累年統計ニ付テハ平均風速ハ變更前迄ノ累年合計値ニ〇・七ヲ乘シ之ニ變更後ノ値ヲ累加シ又最大風速及暴風日數ハ總テ變更後ノ常數ニ依ルモノニ換算スヘシ

八 林内外氣象要素ノ比較及各種時別平均値ノ如キ觀測又ハ累年統計ヲ廢止シタルモノハ現用累年原

簿ヨリ省キ別ニ目次ヲ添ヘテ整理シ置クヘシ

九 氣象累年原簿ノ記入事項以外ニ累年統計表ヲ作製スル場合ハ氣象累年原簿ト別ニ之ヲ整理スヘシ

一〇 特殊ノ觀測事項又ハ試驗事項ニシテ長期間ニ亘ルモノノ累年統計表ハ前項ニ準シテ之ヲ整理スヘシ

森林測候所氣象報告心得

一 森林測候所ニ於テ其ノ所ノ氣象觀測成績ニ付キ林業試驗場長ニ提出スヘキ報告ハ即時報告、定期報告及隨時報告ノ三種トス

二 即時報告ハ顯著ナル事項ニ付キ電報又ハ普通文書ヲ以テ概況ヲ報告スルモノニシテ其ノ事項左ノ如シ

1 豪 雨 附近ノ河川氾濫ノ虞アリ又ハ氾濫シタルトキ

2 暴 風 被害アルトキ

3 地 震 同 上

以上 電 報

4 雪、霜、氷ノ初起日

5 晚 霜 普通樹木ノ發芽期前後ニ結霜アリテ被害アリタルトキ

6 積雪最盛期及融雪期ノ概況

以上 文 書

三 電報ニ依ル即時報告ノ報告方ハ左記ニ依ルヘシ

1 豪雨ノ場合ノ例

日 觀測時 雨量 期間 記事 所名
 ○八 一四 一五三 一七 ○○○ ○○

備考 日附、觀測時及期間(雨量ニ對スル降り初メヨリノ時數)ハ數字ニ字ヲ用キ雨量ハ耗ニ止メ三字ニ記スヘシ例ヘバ八十五耗ナラバ〇八五ト記スルガ如シ記事ハ片假名三字ヲ用キ左ノ符號ニ依リ所名ハ農林省電報發信符號表ニ依ルヘシ

符號 第一 字 第二 字 第三 字
 イ 連日降雨アリ天氣恢復ノ見込 當所附近氾濫ノ虞アリ 下流氾濫ノ虞アリ
 ロ 連日降雨アリ尙降雨續ク見込 當所附近氾濫セリ 下流氾濫セリ
 ハ 天氣恢復ノ見込 當所附近氾濫多少被害アリ 下流氾濫多少被害アリ見込
 ニ 尙降雨續ク見込 當所附近氾濫被害大ナリ 下流氾濫多少被害アリ
 ホ 降雨中ナリ 當所附近被害少キ見込 下流氾濫被害大ナリ
 ヘ 降雨止ミ天氣恢復ス 當所附近被害大ナル見込 下流氾濫被害大ナル見込
 ト 降雨止ミタルモ未タ天氣恢復セズ 下流氾濫ノ見込ナルモ程度不明
 チ 降雨止ミタルモ未タ天氣恢復セズ 下流ノ狀況不明

2 暴風雨又ハ地震ノ場合ニハ適宜簡明ナル電文ニ依リ之ヲ報告スルコト

四 文書ニ依ル即時報告ノ報告方ハ左記ニ依ルヘシ

- 1 雪、霜、氷ノ初起日ハ出現ノ日及其ノ平年起日ニ對スル早晚日數ヲ記シ端書ヲ以テ報告スルコト
- 2 晩霜ニ依リ樹木ニ被害アルトキハ其ノ起日、結霜ノ程度、被害樹種、被害ノ程度及當日ノ最低

氣溫等ヲ記シ端書ヲ以テ報告スルコト但シ被害ノ有無ハ各所ノ構内及其ノ近隣ノモノニ就キ判定スヘシ

3 積雪最盛期ノ概況ハ略積雪ノ最盛期ト認メラルル前後十日間ノ毎日ノ積雪ノ深サ及之ト前年並

平年トノ比較ヲ記載シ該期ノ經過後速ニ之ヲ報告スルコト

4 融雪期ノ概況ハ融雪期日(積雪終日)ノ前十日間ノ毎日ノ積雪ノ狀況(深サヲ表シ得サルトキハ見タル儘ノ狀況)及該期日ヲ前年並平年ト比較シタル早晚日數及早晚ヲ來シタル原因例ヘハ降雨、氣溫等ヲ簡明ニ記シ速ニ之ヲ報告スルコト

五 定期報告ハ氣象月表及氣象年表ノ二種トス

六 氣象月表ハ氣象用紙第二號(氣象月表報告用紙)ニ依リ其ノ月ノ分ヲ翌月十日迄ニ提出スヘシ但シ其ノ

記入方ハ左記ニ依ルモノトス

- 1 各頁ニ年月所名ヲ漏レナク記入スルコト
- 2 各欄ノ記入ハ總テ氣象月表原簿ニ依ルコト
- 3 記事欄ニハ原簿ノ「記事其ノ一」欄ノ事項ヲ類別記入シ査閱並各種日數ノ計算ニ便ナラシムルコト又降水及電雷ノ記事ハ始終及經過ノ概要ヲ示ス程度ニ簡略シ特ニ詳細ニ報告ノ必要アルモノハ別ニ文書ヲ以テ之ヲ報告スルコト

4 自記雨量計ニ依ル毎時ノ降水量ハ氣象用紙第九號（毎時觀測成績表用紙）ニ記入シ月表ト同時ニ提出スルコト

七 氣象年表ハ氣象用紙第五號ノ一（印刷原稿用紙）ヲ用キ其ノ年ノ分ヲ翌年一月末日迄ニ報告スヘシ但シ各欄ノ記入ハ總テ氣象年表原簿ニ依ルヘシ

氣象月表印刷原稿ハ氣象用紙第五號ノ二（印刷原稿用紙）ニ記入シ氣象年表ト綴合セテ送付スヘシ又氣象年表及月表印刷原稿ノ記入事項中ニ引クヘキ横赤線ハ左表ニ依ルヘシ

[illegible]

八 隨時報告ハ臨時觀測ノ成績、特異現象ノ記事並試驗事項ノ成績等ヲ報告スルモノトス但シ臨時觀測ノ成績及特異現象ノ記事ハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ

九 臨時觀測成績ノ報告方ハ左記ニ依ルヘシ

1 暴風雨報告

顯著ナル低氣壓、颱風、旋風、其ノ他特殊ノ事情ニ因ル暴風雨アリタル場合ハ氣象用紙第七號(暴風雨報告用紙)^註ニ依リ其ノ經過ヲ報告スルコト尙不連續線の現象ニ注意シ之ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル事項ハ詳細ニ之ヲ記錄スルコト但シ本報告ニ記入スヘキ氣壓ハ海面更正ヲ施シタル示度トス

被害アリタル場合ハ本報告ニハ其ノ大要ヲ記スルニ止メ詳細ハ別ニ之ヲ報告スルコト

2 顯著雷雨報告

顯著ナル雷雨ノ場合ハ氣象用紙第八號(顯著雷雨報告用紙)ニ依リ其ノ經過ヲ報告スルコト

本報告ニ記載スヘキ氣象要素ハ雷雨ノ始ヨリ終迄ノ經過ヲ示ス爲每一時間ノ値ヲ記入スルコト但シ氣象要素ニ急激ナル變化アルトキハ之ヲ示スニ必要ナル時刻ノ値ヲ記スルカ又ハ其ノ部分ノ自記々錄ヲ鵬寫^テシテ之ヲ添付スヘシ

本報告用紙中「記事ノ一」ハ雷鳴電光ニ關シ注意シタル事項例ヘハ雷鳴ノ繼續時間、電光ノ

形状ノ如キヲ成ルヘク簡明ニ記載スルコト

同「記事ノ二」ハ氣象要素ニ關スル事項ヲ記入スルコト例ヘハ氣壓急昇或ハ急降、雲形、雲

向、雲速等又異常ノ雲形ヲ觀測シタルトキハ其ノ形狀、色彩竝見取圖ヲ記入スルモノトス

「記事ノ三」ハ降水ノ經過、電ノ大サ、形狀、重量、落雷被害等ニ關スル事項ヲ記入スルコト

一〇 地震、黃砂、着色雪等特異ノ現象ヲ觀察シタル場合ノ報告方ハ普通半紙全罫紙又ハ原稿用紙ニ之ヲ記載シ寫眞、圖、表等ヲ適宜添付スヘシ

一一 特殊試験又ハ調査ノ成績ハ該事項ノ完了シタルトキ之ヲ取纏メ報告スヘシ但シ試験長期ニ亘ルモノハ毎年其ノ經過ノ大要ヲ報告シ又期間中毎月報告スヘキモノハ氣象用紙第六號ノ二（試験成績表用紙）ヲ用キ月表ト共ニ提出スルコト

借り出したときは

- 借りた本は責任をもって保管しましょう。
- 必ず期日を守りましょう。
- よごさないようにしましょう。
- 折目をつけないように読みましょう。
- また貸しをやめましょう。

K・S